

押さえて
おきたい!!

中計から紐解く、 イチオシ企業大特集

東プ・5142

アキレス株式会社

テクノロジーの融合で 人、社会、環境を支える

1947年、ゴム製品の製造・販売会社として誕生したアキレス株式会社。発泡・成型・製膜をコアテクノロジーとし、日々の暮らしから産業、防災まで幅広いマーケットで8つの事業を展開。技術革新への積極的な取り組みや市場ニーズに応じた製品開発、国内外での戦略的な拠点展開を通じて業容を拡大させてきた。



代表取締役社長
日景 一郎氏

産業から防災まで 多角的な事業展開

累計販売数8400万足を超えるジュニアスポーツシューズ「瞬足」の人気ぶりからシューズメーカーというイメージが先行しているが、同社の真価は、医療や建築、半導体関連等、社会や環境に配慮した多角的な事業展開と、そこで培ってきた多様なテクノロジーの掛け合わせによる革新的なソリューション創出力にある。こうした強みを最大化し、マーケットへの深耕を一段と加速させるために策定されたのが今回の新中期経営計画だ。2027年までの3年間を収益力の再構築・強化期と定義するとともに、「Vision 2030（2030年度に目指す姿）」に向けた基盤確立期間と位置付け、事業基盤の高度化やサステナビリティ経営の推進にも取り組んでいく。売上880億円、営業利益率3.4%、ROE5.0%以上に向着て——新中計の柱となる3つの全社戦略の中心に迫る。

3つの全社戦略で 収益改善を最大化

全社戦略の1つ目が、事業の位置付けに応じて経営資源を最適配分する「選択と集中の徹底」だ。最優先課題となるのがシューズ事業の損益改善で、ブランドを中心とした絞り込みに加え、広告や価格、販売チャネルの最適化などを通じて黒字化への道筋を立てる。車両資材事業においても、内装用資材の集約生産と機能性を軸にした差別化やモビリティ分野全般への事業展開の強化で収益力向上を図る。戦略の

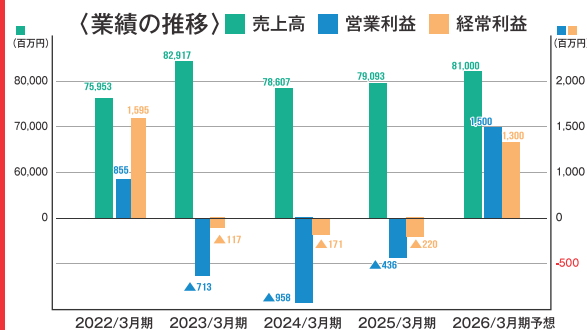
成長事業への リソース集中で躍進へ

戦略の3つ目が「グローバル戦略の推進」で、ソリューション戦略を水平展開し、東アジアから北中米までグローバルビジネスを拡大。海外事業戦略室の新設も予定。2027年度にはグローバル拠点売上高220億円を目指す。全社戦略と人材力、生産性、技術力、価値創造・開発力を向上させ

2つ目となる「新たな価値の創造」では、社会性や市場成長性、自社テクノロジーとの親和性の観点から、エレクトロニクス、モビリティ、メディカル&ヘルスケア、コンストラクション&インフラ、セーフティ・アクティビティを重点分野に特定。特に半導体や医療・医薬、脱炭素社会に向けた建築関連を中心に事業拡大を推進し、潜在ニーズ発掘につなげる。

DATA

注：データは2025年9月3日時点



株価 **1,127円**

配当利回り **2.66%**
(今期予想)

本中計財務目標

- 売上高 **880億円**
- 営業利益率 **3.4%**
- ROE **5.0%以上**

業績POINT

新組織で迎えた26年3月期1Qは純損益2.4億円の黒字、連結経常利益が8.4倍となる3.7億円に増益。生産性の向上や経費削減の徹底もあり、全セグメントで営業利益が前年同期から大きく改善した。

企業ロゴ

Achilles

DATA

アキレス株式会社

東京都新宿区北新宿2-21-1
新宿フロントタワー 総合受付22F

詳しくはこちら



せるべく、組織再編や人事制度の拡充、AI技術活用による生産体制の再構築なども進める。「成長性の高い分野に経営資源を集中しつつ、収益性を着実に改善し、結果を出していく。アキレスの将来性に期待してほしい。」という日景社長の言葉どおり、26年3月期1Qの連結経常利益は前年同期比8.4倍に急拡大。上期計画進捗率は125.3%とすでに計画を上回った。社名の由来、英雄アキレスのように社会や人々を支え、未来を豊かにする同社の躍進から目が離せない。